

---

# ご挨拶

## シンポジウムの開催にあたって

21世紀の科学技術のなかで重視されている情報科学技術は、経済社会の側面から見ると既存の産業の生産性を大きく向上させるとともに、新しい技術の開発や新産業の創出に貢献することが期待されます。

なかでも、コンピュータシミュレーションに代表される計算科学技術は、「実験」、「理論」に次ぐ第三の科学技術手法として、資源を大量に消費せず比較的短期間で様々な分野の問題を解決するための有力な方法として注目されております。

一方、これまで以上に生産的な研究環境を実現するための情報基盤として、各地に分散している研究者、研究機関がネットワークを介して共同して研究開発を行える環境、ネットワーク上に分散した情報資源を系統的に統合し、新しい生産システムの創出が望まれております。

このような状況を踏まえ、当事業団では、計算科学技術の手法を用い、高速ネットワークを活用した特定分野の研究開発を促進することにより、計算科学技術の進展とネットワークの高度活用を図ることを主な目的として、平成10年度から「計算科学技術活用型特定研究開発推進事業」の推進に着手致しました。

この事業は研究開発課題を産学官から広く募集し、優れた課題を選定し研究を推進するものです。

このうち、平成11年度採択基本型は平成14年9月末で、また、平成12年度採択基本型は平成15年3月末で研究開発期間を終了します。本シンポジウムは平成11年度並びに12年度採択のあわせて8課題について成果の報告を行うもので、各課題の研究内容並びにこれまでに得られた成果を公の場において発表し、活発なディスカッションを行うことにより、参加者のご理解を得るとともに広く普及する機会とするために開催いたします。

このシンポジウムでは、物質・材料、地球・宇宙観測、環境・安全、及び生命・生体の4分野において、計算科学技術を駆使した研究開発成果について報告致しますので活発なご討議をお願いする次第です。

なお、本研究成果はACT-JSTソフトウェアライブラリー（URL：<http://act.jst.go.jp/>）にて公開・配布いたします。

平成15年1月29日

科学技術振興事業団

専務理事 北澤 宏 一

---